

一 般 質 問 通 告 書

令和6年 北秋田市議会 3月定例会

順位	1-5	質問者	7	福岡 由巳	(無会派)	出席を要求する理事者	市 長
質 問 事 項 及 び 要 旨						理 事 者 の 答 弁	
1. 北秋田市防災計画の現状について ①市として能登半島地震から得た教訓と課題について 1) 今回の災害から得られた教訓と課題は何か。ここでは1点、避難所に関して報告を求める。 2) 本市の災害と言えば風水害によるものが多いが、合川地区内の豪雨災害に対する避難所は十分とは言えない。これまで幾度となく指摘しているが改善の兆しが見えない。急ぐべきでないか。 ②小阿仁川の早期築堤について 1) 毎年のように続く小阿仁川筋の氾濫は田畑の被害が拡大したままでなかなか改善が進まない。小阿仁川の築堤工事等の河川改修について市当局と上小阿仁村と共同で県当局への要望を更に強化すべきでないか。 ③萩形ダムの放流状況に適切に対処することについて 1) 萩形ダムのダムグラフが一定期間保存されることになり、市民への情報発信について一歩前進であるが、小阿仁川河川が未整備なことから市当局としても市民に対して萩形ダムの放流状況について適切な情報提供を行うべきでないか。 2. 人口減少対策について ①北秋田市人口ビジョンについて 1) 北秋田市の人口は合併した平成17年、4万49人から15年後の令和2年には3万198人と15年間で約1万人減少している。この25%減少したことにより様々な分野で課題が山積していると考えられる。 国の人口戦略である地方創生は実態に合っていないことが指摘されつつあり、市としても独自に分析していかにして人口増に転じさせるか、計画を改めるべきと考えるがいかがか。							

②第1次産業人口対策について

- 1) 北秋田市の第1次産業の人口減は、高齢者の離農の急増や若者の人口減により産業の危機に瀕していると言っても過言ではない。本市の基幹産業の発展のためには就農者を増員することが喫緊の課題である。如何に取り組むか。

3. 北秋田市民病院の医師等確保と医療の充実について

①常勤医師と助産師の増員を

- 1) この度の「令和7年度から産婦人科分娩取り扱い中止」の発表は市民にとって大変ショッキングなニュースとなっている。「子育て支援」が国の重要施策の1つになっているときに今回の助産師8人が半減するから「分娩取り扱い中止」に至ったとのことであるが、産婦人科常勤医師2人が登録されていることから助産師を補充することを断念することは理解に苦しむ。方針を撤回すべきでないか。
- 2) 最近、社会では差別、暴力、虐待、暴言、いじめ、引きこもり、自殺等々考えられないような事件が起こるとともに、住民の抱える問題や悩み等の数が増え質が複雑化しているように感じる。このことから精神科病棟を稼働することが求められていると考えるがいかがか。
- 3) その他、救急患者増加、約60%の圏域外流出患者、眼科外来患者の長時間待合等々を改善するために常勤医師の増員が更に求められるが当局の意気込みはいかがか。

4. 森吉山荘を早期再開することについて

①無償譲渡の再募集に対する応募状況について

- 1) 森吉山荘を民間事業者へ無償譲渡する再募集に関して応募状況はどうなっているか。森吉山荘の再開にはますます厳しい状況になっているが募集はいつまで続けるのか。
- 2) 国立・国定公園に向けて奥森吉の集団施設地区の構想はどのようなものか。

5. 熊対策について

①鳥獣被害防止計画について

- 1) 令和5年度は、全国的にも県内においても熊による人的被害が過去最多となった。このことから環境省は熊について捕獲を国が支援する「指定管理鳥獣」に追加すると表明した。これを受けて県も「人と熊の共生の実現に向けた対策を強化する」としているが、改定「北秋田市鳥獣被害防止計画」の特徴点は何か。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">2) 住民の生活圏確保のため緩衝地帯を拡大することは緊急な課題である。具体的な計画はどうなっているか。3) 若手猟友会員拡大は急務と考えるが人材育成はどうなっているか。 | |
|---|--|